



2012年4月25日－即日発表

2012年メーデー 公共サービスのための戦い

国際公務労連は今年のメーデーにあたり、公共部門労働者の基本的人権と労働組合権、およびすべての市民が質の高い公共サービスを普遍的に利用する権利を擁護する決心をあらためて表明する。

2012年メーデーでは、公共部門労働者とPSI加盟組合が、人々の暮らしと、多くの人々が価値を見出し信頼を置く公共サービスを守るイデオロギーの戦いに従事する。

2008年に襲った金融危機は、公的支出の削減、公共サービスの民営化、公共部門の雇用、賃金、条件の大幅削減の理由として利用されている。現実を見れば、危機はただの言い訳に過ぎない。サービス破壊の矛先となった公的赤字は、経済危機の原因ではなく結果だ。政府の大半が雇用創出とディーセントワークに根差した解決策を盲目的に拒む態度が、複合的な危機を長期化させている。北側諸国政府の多くが強行する緊縮財政措置は、国際金融機関が途上国に課し、悲惨な状況を招いた構造調整プログラムにあまりにも酷似している。

労働に対する前例のない組織的な世界規模の攻撃が、このイデオロギー的荒廃の一環として行われた。結社の自由、団体交渉、表現の自由は、すべて危機にさらされている。若者が描く未来像に、ディーセントワーク、公正な賃金と人間らしい生活はほぼ見込めない。男女平等は、どんどん後回しにされている。

PSIのピーター・ウォルドルフ書記長はこう語る。「だが、この不当な処置に対してわれわれは共に立ち向かう。一般市民は、私欲に燃えた一部、しかもほんの1%の有力な少数独裁者が、われわれを犠牲に利益を上げているのを知っている。その1%が、莫大な富の増大に必死で固執しようとして、この不平等拡大を故意に招いているのを知っている。一般市民は、公共サービスがボロボロになっていくのを、そしてサービスを提供する勤勉な労働者が悪の根源とされているのを目にしている。われわれは、これにNOを突きつける。われわれは、明らかな不公正に向かって結集する。公平性、正義、人権の尊重に基づくより良い世界に向けて結集する。

公共部門組合として、公共サービスが正義ある民主的社会の基盤であることをわれわれは知っている。われわれの戦いは大衆の戦いであることを知っている」
連帯にのみ勝利あり。

media release... communiqué de presse... comunicado de prensa...